

小学部 第2学年 国語科「お話のさくしゃになろう」学習指導案

<p>単元の目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵を見て想像したことから書くことを決め、「はじめ」「中」「おわり」のまとまりのある物語を書くことができる。【思考力・判断力・表現力等】</li> <li>・物語を読み合い、感想を交流することができる。書いた物語を読み返して、誤字・脱字を直したり、句読点、助詞、かぎの使い方を正したりすることができる。【知識・技能】</li> </ul>
<p>○日本語支援 ●多文化共生の視点</p>	<p>○まず、「お手紙」の教材文を用いて、物語を作るために必要な要素として、「登場人物」や「物語の展開」を確認させる。その際、物語の展開として、「はじめ」「中」「おわり」を提示して、順序をもって書くことを意識できるようにする。</p> <p>○物語の題材とする絵を見ながら、登場人物や、物語の構成をメモカードに書き、それをもとに物語の創作を行うことができるようにする。</p> <p>●中国の児童用絵本の挿絵を使用し、単元のまとめで自分の書いた物語と、もとの物語の読み比べを行う。物語の展開について確認するとともに、中国の文化に触れるきっかけとする。</p> <p>●本単元では、多文化社会の中で生きる力として、主に、寛容性の育成を図りたい。そのために、創作した物語を互いに読み合い、良さを伝え合う活動を取り入れる。</p>

単元の指導と評価の計画

時間	学習活動	評価規準
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の見通しをもつ</li> </ul>	<p>学習課題を理解し、楽しんで物語を書こうという意欲を持っている。【態】</p>
2 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物や話の内容をまとめた構成メモを作る。</li> </ul>	<p>題材となる絵を見て、物語の展開が明確になるように、簡単な構成を考えている。【思・判・表】</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物語の「はじめ」を書く。(本時)</li> </ul>	<p>「はじめ」に書く内容に適したものを捉え、書き出しを考えている。【思・判・表】</p>
5 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物語の「なか」を書く。</li> </ul>	<p>構成メモをもとに、主述の関係を明確にして文を書いている。【知】</p>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物語の「おわり」を書き、全体を読み返す。</li> </ul>	<p>絵に合わせて物語の締めくくりを考えている。【思・判・表】</p> <p>読み返して、間違いを正している。【思・判・表】</p>
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・題名をつけ、挿絵の配置を整理して、作品として完成させる。</li> </ul>	<p>物語の内容に合った題名を考えたり、展開に合わせて、挿絵の配置を整理している。【思・判・表】</p>
9 10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書いた文章と元の文章を読み比べる。</li> <li>・書いた文章をお互いに読み、学習を振り返る。</li> </ul>	<p>自分の書いた物語と元の物語を読み比べ、物語の展開について振り返って考えている。【思・判・表】</p> <p>友達の書いた物語を読み、内容や表現の良いところを見つけている。【思・判・表】</p>

本時の学習

- (1) ねらい 「はじめ」に書く内容に適したものを捉え、書き出しを考えて書くことができる。
- (2) 準備 構成カード、ワークシート、掲示物
- (3) 展開 (☆多文化共生の視点)

学習活動と内容	指導上の留意点	評価規準（方法）
1. めあての確認をする。		
「はじめ」のまとまりに書く内容を確認して、書き出しを考えよう。		
2. 既習の物語の書き出しを読み、「はじめ」にはどんなことが書いてあるか確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「スイミー」「お手紙」の書き出しを提示し、「はじめ」のまとまりに、登場人物や場所が書かれていることを確認できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「はじめ」のまとまりに適した内容を考えられている。（発言）【思・判・表】</li> </ul>
3. 「構成カード」に書き込んだ登場人物に関することをもとに文を書く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主語と述語について確認して、書きたいことが明確に書き表せるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主語と述語を意識して文を書くことができている。（記述）【知】</li> </ul>
4. 書いた文章をペア（三人組）で読み合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆お助けカードを提示して、主語・述語や、書き出しについて確かめられるようにする。（日本語支援）</li> <li>・書き終わった子には、自分で読み返しをさせる。 （ならったかん字を使っているか） （主語と述語が分かりやすい文か）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の記事を読み、間違いを直したり、書き足したりしている。（発言・行動観察）【思・判・表】</li> </ul>
5. 学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペア（三人組）で読み合い、アドバイス（句読点、助詞、漢字、かぎの使い方など）良いところを伝えるようにする。</li> <li>☆友達が書いた文章を読み、良いところを伝える。（寛容性）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習計画表を使って、学習を振り返られるようにする。</li> </ul>

考察

（成果）

「はじめ」「中」「おわり」のまとまりごとに、既習の物語や絵本の文を参考にすることで、比較的スムーズに書き進めることができた。

ペアでの読み合いの活動の中で、「この言葉はどういう意味？」と質問し合う姿が見られた。また、「ほめほめカード」には、内容だけでなく表現に注目して相手の書いた文の良さを伝えているものもあった。これは、多文化共生の視点から見て、寛容性を深めるとともに、語彙力を伸ばすきっかけとなったと考える。

中国語の絵本を題材としたことで、中国にルーツのある児童が、元の文章の内容を紹介するなど、活躍の場を作ることができた。

(課題)

お助けカードの提示は、文章を書き始めるきっかけとして有効ではあったものの、日本語に支援を要する児童は、ことばの変換や活用ができないため、かえってぎこちない文章になってしまうということがあった。

中国の絵本を題材にしたことで、中国にルーツのある児童は元の話を参考にして書いてしまい物語の創造性は損なわれてしまった。

～ 児童の感想から（元の絵本と比べて） ～

- 元の話を読んで、主人公の勇気を感じることができた。私の書いたものより勇気が伝わりやすかった。
- 本当の本のほうが、出来事があると思った。次回は、参考にしたい。
- 中国語の題名から、話がどうなるのか想像できなかった。

